

携議
連会
新略
部戦
中支
援援

製品開発など成功例発表

半田 カネミヤ 大府 協和工業

中小企業の連携により新事業の開拓を目指す「中部新連携支援戦略会議」が十八日、名古屋市内で開かれた。すでに新連携の認定を受け、業績が好調な知多地域の二社が代表として事例を発表した。

新連携事業では、中部経産局を通じて認定を受けると、国の補助金や融資制度などの優遇措置が受けられる。二〇〇五年から始まり、同局管内で七十三件が認定されている。

代表に選ばれたのは、半田市のカネミヤと大府市の協和工業。カネミヤは、食品工場などで廃棄されてきたポリ袋を洗浄する機械を開発。神奈川県の樹脂メーカーと手を組みプラスチックの原料として再生させ、事業全体で売り上げを倍に伸ば

した。間瀬隆夫社長は「ごみを買って上げ原料にする新しい世界。県外だったが技術の高い会社と連携することで高値で売れる再生品ができた」と報告。

自動車のジョイントを製造する協和工業は、常温で金属を加工できる冷

間鍛造という独自の技術を生かし、農機具の下請けメーカーと連携。精度が高く安価なジョイントやハンドル部品の製造を可能にした。鬼頭佑治社長は「新連携に認定され信用力がアップした。連携の原則は各社の都合を優先させず顧客にベストの対応をすること」と成

功の秘訣（ひけつ）を話した。会議には、委員長の小川英次中京大名誉教授、委員の安井義博名古屋商議所副会頭（ブラザー工業会長）らが出席した。この日の意見を参考に、二〇〇八年度の支援目標などが練られる。

（長坂幸枝）